

都市再生整備計画 事後評価シート
JR奈良駅周辺地区

平成24年3月

奈良県 奈良市

様式2-1 評価結果のまとめ

金額: 百万円

都道府県名	奈良県	市町村名	奈良市	地区名	JR奈良駅周辺地区			面積	407ha
交付期間	平成19年度～平成23年度	事後評価実施時期	平成23年度	交付対象事業費	3,690.4	国費率	0.439		

1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路事業(三条線:三条工区)、地域生活基盤施設(JR高架化に伴う隙間地を活用した緑地整備)						
		提案事業	地域創造支援事業(JR旧奈良駅舎耐震・内部改修⇒H20年8月(第二回変更)で、『JR旧奈良駅舎耐震・改修・施設整備』に名称変更)、事業活用調査(歴史的町並み資産調査)、まちづくり活動推進事業(ならまちまちしるべの設置)						
	当初計画から削除した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(JR高架化に伴う隙間地を活用した緑地整備)	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
		提案事業	該当なし						
	新たに追加した事業	基幹事業	道路(大宮三条本町線) 地域生活基盤施設(JR奈良駅東口駅前広場、JR奈良駅西口駅前広場拡幅、(仮称)JR奈良駅東口自転車駐車場) 高質空間形成施設(JR高架下公衆トイレ、JR奈良駅東口駅前デッキシェルター) 高次都市施設(JR奈良駅東口駅前広場デッキ・階段等、JR奈良駅西口駅前広場デッキ)	JR奈良駅周辺を中心とした町の質の向上、歩行者交通環境の改善、歩行者動線の確保、駅前利用者の利便性を図るため、事業を追加。			(仮称)JR奈良駅東口自転車駐車場の追加の際、「指標3:JR奈良駅周辺の放置自転車数」を追加。その他、影響は軽微なため変更該当なし		
		提案事業	地域創造支援事業(旧松矢家住宅活用事業、良好な歩行者空間整備) 事業活用調査(三条線と駅前広場の整備とあわせた景観計画、近鉄奈良駅周辺交通結節点改善計画策定)	目標をより良く達成するため			影響は軽微と考えられるため、変更該当なし		
交付期間の変更	当初	平成19年度～平成21年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	事業期間の延伸により、各指標の目標値を修正					
変更		平成19年度～平成23年度							

2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
					(参考値)							
指標1	三条通の歩行者・二輪車交通量(各年8月)	人/日	9,618	H18	12,000	H23	H20: 11,408 H21: 9,883 (H22: 11,547)	11,600 (推計値)	△	あり	● 平成18年までは三条通の歩行者通行量は減少傾向にあったが、平成19年以降は前年歩行者数を上回り、増加傾向に転じていることから、評価値(推計値)は目標値に達していないものの改善していると認められる。また、平成18年から平成22年の実測通行量を基に平成24年における推計値が12000人と算出され、完成見込み事業の整備が進めばなお一層目標値への到達が可能になると考えられる。	平成25年11月
指標2	観光案内所への来訪者数(各年1～12月)	人/日	283	H17	535	H23	H19: 348 H20: 386 H21: 418 (H22: 537)	410 (推計値)	△	あり	● 評価値(推計値)は、平成13年から平成22年における月別来訪者比率及び平成23年1月から7月における実測来訪者を基に算出し、東日本大震災の影響もあり目標値を下回った。平成17年までは奈良市観光案内所の年間来訪者数は減少傾向にあったが、平成18年以降は前年来訪者数を上回り、増加傾向に転じていることから、評価値(推計値)は目標に達していないものの、改善していると認められる。また、平成24年における来訪者数については、平成17年から平成21年までの実測来訪者数を基に推計値を約520人と算出したうえで、来年震災の影響が収まればこれまでの傾向で推移すると考えられ、目標は概ね達成すると判断した。	平成26年1月
指標3	JR奈良駅周辺の放置自転車数(各年4～6月)	台/日	78	H20	10	H23	- (H22: 14)	9	○	あり	- 平成20年まではJR奈良駅周辺自転車等放置禁止区域内における放置自転車数は増加傾向にあったものの、平成21年からは減少傾向に転じ、「(仮称)JR奈良駅東口自転車駐車場」は事業が完了していないが、暫定自転車駐車場に駐輪している現状で、評価値が目標値を下回った。この状況において既に目標を達成しており、整備完了時には更なる効果が期待できる。	平成25年7月

様式2-1 評価結果のまとめ

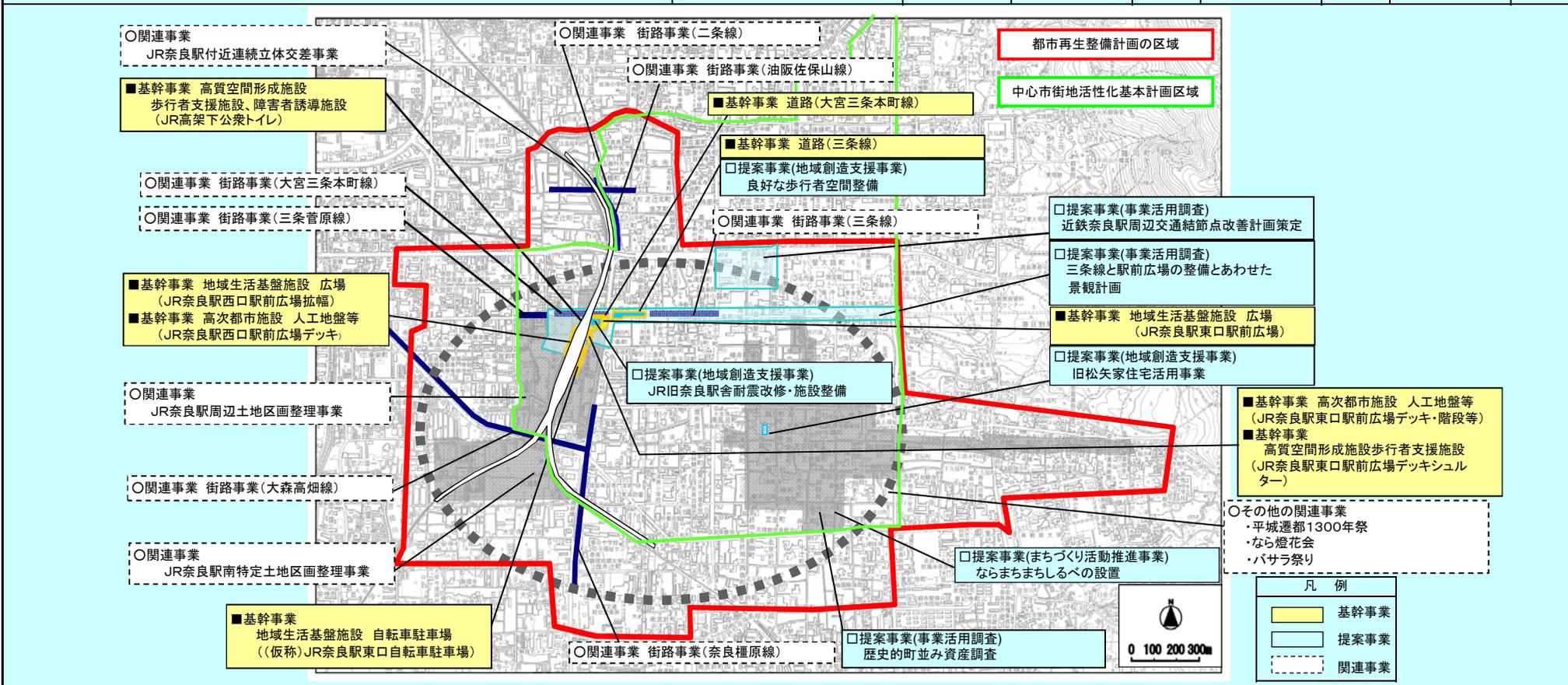
金額: 百万円

3) その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	指 標		従前値	目標値		数 値		目標 達成度※1	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
	その他の 数値指標	単 位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
	該当なし										
4) 定性的な効果発現状況		特になし									
5) 実施過程の評価			実施内容			実施状況			今後の対応方針等		
	モニタリング		平成20年2月～9月、平成21年7月～12月、平成22年7月～12月の3回実施した。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			●	事業のフォローアップとして来年度以降も定期的に実施する。	
	住民参加 プロセス		三条通りまちづくり協議会による三条通りの活力あるまちづくりへの取り組み			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			●	市と当該協議会が協働した取り組みを継続する。	
	持続的なまちづくり 体制の構築		該当なし			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					

様式2-2 地区の概要

JR奈良駅周辺地区(奈良県 奈良市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標: 古都奈良の玄関口でもあるJR奈良駅周辺を中心とした、街の質の向上と、観光・市民交流と賑わいの拡大。	三条線の歩行者・二輪車交通量	9,618 H18	12,000 H23	11,600 (推計値) H23
目標1: JR奈良駅と街なかを結ぶ歩行者交通環境を改善して街なかへの人の流れを増やし、沿道商店街の賑わい再生に資する。	観光案内所への来訪者数 (外国人含む)	283 H17	535 H23	410 (推計値) H23
目標2: 旧駅舎や歴史的資産の活用により、駅前や街中の観光拠点機能を強化し、鉄道やバスなどの公共交通機関を利用した観光を振興する。	JR奈良駅周辺の放置自転車数	78 H20	10 H23	9 H23
目標3: 交通環境の改善により、JR奈良駅周辺地区の土地利用の促進に資する。				



まちの課題の変化	<p>①奈良観光の振興と中心市街地の活性化に向けて、中心市街地の玄関口としてのJR奈良駅周辺地区整備の完遂と、その整備効果の周辺への波及促進が緊急の課題であった。減少傾向にあった駅前の観光案内所利用者数(観光客数)等も、近年は増加傾向に変わり、整備の効果は発現しているように見える。事業期間中に平城遷都1300年祭が開催され多くの観光客が訪れた効果を持続し、今後より一層の賑わいに繋げていくことが課題となる。</p> <p>②自転車等放置禁止区域内では駐輪場の整備と共に、周辺の整備による周辺環境の美化により、放置自転車が減少したものと考えられるが、禁止区域外(三条線の道路拡幅用地部分やJR奈良駅付近連続立体交差事業によって生じた隙間地等)では放置自転車が増加した。</p>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<p>①本事業で、事業間の調整のため削除し、平成24年度以降に事業を実施するもの(JR奈良駅東口駅前広場の二期工事、JR高架化に伴う隙間地の有効利用)については、これらの事業を完遂することにより、効果の持続につなげていく。</p> <p>②自転車等放置禁止区域の見直し</p>

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- ~~添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測~~
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- ~~添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理~~

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 都市再生整備計画評価委員会の審議

- 添付様式8 都市再生整備計画評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- ~~添付様式9 有識者からの意見聴取~~

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	該当なし			
A. まちづくりの目標		●			

	変更		当初計画	変更履歴	変更理由
	あり	該当なし			
B. 目標を定量化する指標 C. 目標値	●		指標1:三条通の歩行者交通量の増加 平成19年3月(当初計画)に目標値を設定 従前値(H18:6700人/日) 目標値(H21:7000人/日)	①平成20年11月(第3回変更)に目標値変更 従前値(H18:9618人/日) 目標値(H23:12000人/日) ②平成23年3月(第6回変更)に名称変更 指標名を「三条通の歩行者交通量の増加」から「三条通の歩行者・二輪車交通量」に変更	①平成20年11月の変更理由 計画期間の変更(H21からH23へ延長)と中心市街地活性化基本計画を踏まえた目標値に変更。定義も「奈良駅東口広場から三条通に流れる歩行者の人数」を「JR奈良駅と東の観光拠点を結ぶ三条通の歩行者数」に変更。 ②平成23年3月の変更理由 中心市街地活性化基本計画を踏まえ、指標名および定義をより厳密な内容に変更した。定義は「JR奈良駅と東の観光拠点を結ぶ三条通の歩行者数」を「JR奈良駅と東の観光拠点を結ぶ三条通の歩行者・二輪車の交通量」に変更。
			指標2:旧駅舎への来訪者数 平成19年3月(当初計画)に目標値を設定 従前値(H17:200人/日) 目標値(H21:220人/日) ただし、外国人含まず。	①平成20年11月(第3回変更)に目標値変更 目標値 従前値(H17:200人/日) 目標値(H23:240人/日) ②平成23年3月(第6回変更)に指標名及び目標値を変更 指標名を「旧駅舎への来訪者数」から「観光案内所への来訪者数」(外国人含む)に変更 従前値(H17:283人/日) 目標値(H23:535人/日)	①平成20年11月の変更理由 計画期間の変更(H21からH23へ延長)とモニタリングの結果から目標値を従前の1割増から2割増へ変更した。 ②平成23年3月の変更理由 奈良市総合観光案内所の開設により、指標の定義を「JR奈良駅総合観光案内所及び奈良市総合観光案内所の来訪者」に変更し、目標値もモニタリング結果を参考に変更した。
			指標3:－ 当初計画から第4回変更まで目標設定該当なし	指標3:JR奈良駅周辺の放置自転車数 ①平成22年3月(第5回変更)時に新規に設定 従前値(H20:78台/日) 目標値(H23:25台/日) ②平成23年3月(第6回変更)時に目標値変更 従前値(H20:78台/日) 目標値(H23:10台/日)	①平成22年3月の目標設定理由 (仮称)JR奈良駅東口自転車駐車場の事業追加に伴い、この事業効果が上記の2指標で確認できるものではないため、新たに指標を追加した。 ②平成23年3月の変更理由 モニタリングにより目標値を達成した状況となったため、目標値の見直しをした。

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	該当なし			
D. その他(事業期間の延伸)	●		事業期間:平成19年度～平成21年度	事業期間:平成19年度～平成23年度	JR奈良駅周辺を中心とした当地区の質の向上を図り、観光・市民交流と賑わいの拡大を継続的に発展させるには、新たな事業の実施が必要であるため、事業追加にあたり、事業期間を3年から5年に延伸した。

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	三条線(三条工区)	1,466.6	L=150m	2,137.0	L=150m	補償物件調査の実施により全体補償費が増加となった。また、ポラード等の整備は「良好な歩行者空間整備」に移行した。	事業の一部が別事業に移行したが、整備内容に変化がないため、変更等は生じなかった。		●
	大宮三条本町線	-	該当なし	16.5	L=60m	歩行者交通環境等の改善を図るためH20年にL=65m、事業費22.4百万円で事業を追加。 東口通路部の整備を平成24年度以降実施に変更することに伴い、工事延長を65mから60mに変更(東口通路開口分の減少)するとともに、事業執行により、事業費が確定した。	影響は軽微なため、変更等は生じなかった。	●	
	(仮称)JR奈良駅西側歩行者道	-	該当なし	-	L=191m	歩行者ネットワークを強化し、憩いと潤いを持った都市空間の形成を図るためH20年に事業(L=191m、事業費231百万円)を追加した。H23年に、三条本町線の整備やJR高架下等の整備が、平成24年度以降となったため、それらとの一体的整備を図ることがより効果的であることから、本計画からは削除する。	影響は軽微なため、変更等は生じなかった。	-	
地域生活基盤施設	JR高架化に伴う隙間地を活用した緑地整備	77.0	A=280㎡	-	該当なし	三条本町線以南のJR高架下利用と一体的に整備することがより効果的であるため、H20年に事業削除。	影響は軽微なため、変更等は生じなかった。	-	
	JR奈良駅東口駅前広場	-	該当なし	29.6	A=1000㎡	歩行者交通環境の整備を図るためH20年度に事業追加。	影響は軽微なため、変更等は生じなかった。	●	
	JR奈良駅西口駅前広場拡幅	-	該当なし	156.4	A=535㎡	JR高架化に伴う鉄道残地を有効活用するためH20年に事業追加。	影響は軽微なため、変更等は生じなかった。		●
高質空間形成施設	(仮称)JR奈良駅東口自転車駐車場	-	該当なし	265.0	2棟 約630㎡、471台 平面、約240㎡、183台 平面、約390㎡、288台	自転車利用者の利便性を図り、駅周辺の放置自転車を防止するためにH22年に事業追加。	事業追加に伴い、その事業効果は必ずしも現指標で確認できるものではないため、新たに指標を追加した(JR奈良駅周辺の放置自転車数)。		●
	JR高架下公衆トイレ	-	該当なし	54.0	1箇所・150㎡	駅前利用者の利便性を図るためH20年に事業追加。	影響は軽微なため、変更等は生じなかった。	●	
高次都市施設	JR奈良駅東口駅前広場デッキシェルター	-	該当なし	120.0	1箇所・508㎡	雨天時など、歩行者の利便性向上のためH22年に事業追加。	影響は軽微なため、変更等は生じなかった。	●	
	JR奈良駅東口駅前広場デッキ・階段等	-	該当なし	384.0	フロアデッキ 234㎡ 階段 W=3~5m エスカレーター 2基	歩行者交通環境の整備を図るためH20年に事業追加。	影響は軽微なため、変更等は生じなかった。		●
	JR奈良駅西口駅前広場デッキ	-	該当なし	169.6	A=210㎡	新駅舎への歩行者動線を確保するためH20年に事業を追加。	影響は軽微なため、変更等は生じなかった。	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	JR旧奈良駅舎耐震改修・施設整備	114.4	JR旧奈良駅舎を有効活用するための整備 (A=473㎡)	186.7	JR旧奈良駅舎を有効活用するための整備 (A=473㎡)	内装のグレードアップ等による事業費増。	影響は軽微なため、変更等は生じなかった。		●
	JR奈良駅東口通路	—	該当なし	—	A=220㎡	歩行者動線を確保し、市民や観光客利便性を図るため、H20年に市総合観光案内所(旧奈良駅舎)の外構工事と併せて整備する予定で事業追加したが、当該部分が平成24年度以降に予定している東口駅前広場の2期工事(最終整備)の工事用ヤードとして不可欠となったことにより、この工事と併せて一体的な整備を図ることとし、本計画から削除することとした。	影響は軽微なため、変更等は生じなかった。	—	
	旧松矢家住宅活用事業	—	該当なし	70.2	A=300㎡	奈良町の活性化、観光振興の推進を図るためH22年に事業追加。	影響は軽微なため、変更等は生じなかった。		●
	良好な歩行者空間整備	—	該当なし	76.0	ポラード整備:40.0 照明灯整備:35.0 景観島整備:1.0 単位:百万円	基幹事業(三条線(三条工区))の一部であったポラード等の整備について、街路事業で整備することが困難であることが判明し、歩行者のための快適でより良い空間整備を行うため、基幹事業から工事費を振り分け、別途提案事業としてH23年に追加した。	全体の事業の一部が本事業に移行したため、整備内容に変化がなく、変更等は生じなかった。		●
事業活用調査	歴史的町並み資産調査	5.0	奈良町都市景観形成地区 (A=約50ha)	5.1	奈良町都市景観形成地区 (A=約50ha)	より詳細な調査の実施による事業費の増加。	影響は軽微なため、変更等は生じなかった。	●	
	三条線と駅前広場の整備とあわせた景観計画	—	該当なし	9.7	景観計画策定 (A=約5.5ha)	JR奈良駅前、三条線と周辺町並みの景観計画策定のためH19年に事業追加。	影響は軽微なため、変更等は生じなかった。	●	
	近鉄奈良駅周辺交通結節点改善計画策定	—	該当なし	2.1	交通結節点改善計画策定 (A=約4.8ha)	交通結節点の機能強化検討のためH19年に事業追加。	影響は軽微なため、変更等は生じなかった。	●	
まちづくり 活動推進事業	ならまちまちしるべの設置	17.0	文化財標柱及び町名標柱設置工事 (140箇所)	8.0	文化財標柱設置工事 (29箇所)	地域住民による町名標柱設置と重複することから、H20年に計画を見直し文化財標柱設置のみとした。	影響は軽微なため、変更等は生じなかった。	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	目標年度	モニタリング	事後評価	事後評価	あり	なし		
指標1	三条通の歩行者・二輪車交通量	奈良市中心市街地活性化協議会において、毎年8月に三条通(旧ダイエー前)で測定した歩行者・自転車・バイクの交通量。評価値(推計値)はH18~22までの測定値を線形回帰して算出。	17,158	H10	9,618	H18	12,000	H23	モニタリング	(H19) 6,770 (H20) 11,408 (H21) 9,883	モニタリング	△	●		
									事後評価	確定 見込み ●	11,600 (推計値)	事後評価			△
指標2	観光案内所への来訪者数	JR奈良駅前にある観光案内所及び奈良市総合観光案内所の1年間の利用者数(外国人含む)を365日で除し、1日当たりの利用者数に換算。評価値(推計値)はH13~22までのデータによる月別平均来訪者比率とH23の1~7月までの来訪者より算定した。	258	H13	283	H17	535	H23	モニタリング	(H19) 216 (H20) 238 (H21) 256	モニタリング	△	●		
									事後評価	確定 見込み ●	410 (推計値:外国人含む)	事後評価			△
指標3	JR奈良駅周辺の放置自転車数	JR奈良駅周辺自転車等放置禁止区域内の1日あたりの平均撤去台数(H23年4月~6月の撤去台数データを使用して算出)。	52	H16	78	H20	10	H23	モニタリング	(H22) 当時の目標値は25台	モニタリング	△	-		
									事後評価	確定 見込み ●	9	事後評価			○

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	平成18年までは三条通の歩行者通行量は減少傾向にあったが、平成19年以降は前年歩行者数を上回り、増加傾向に転じていることから、評価値(推計値)は目標値に達していないものの改善していると認められる。また、平成18年から平成22年の実測通行量を基に平成24年における推計値が12000人と算出され、完成見込み事業の整備が進めばなお一層目標値への到達が可能になると考えられる。三条通の歩行者通行量は減少傾向にあったが、平成19年度以降は前年歩行者数を上回り増加に転じており、整備が進めば目標値に到達可能と思われる。	—
指標2	評価値(推計値)は、平成13年から平成22年における月別来訪者比率及び平成23年1月から7月における実測来訪者数を基に算出し、東日本大震災の影響もあり目標値を下回った。平成17年までは奈良市観光案内所の年間来訪者数は減少傾向にあったが、平成18年以降は前年来訪者数を上回り、増加傾向に転じていることから、評価値(推計値)は目標に達していないものの、改善していると認められる。また、平成24年における来訪者数については、平成17年から平成21年までの実測来訪者数を基に推計値を約520人と算出したうえで、来年震災の影響が収まればこれまでの傾向で推移すると考えられ、目標は概ね達成すると判断した。	震災の影響が長引いた場合、効果の発現(目標値への到達)には数年はかかる可能性がある。
指標3	平成20年まではJR奈良駅周辺自転車等放置禁止区域内における放置自転車数は増加傾向にあったものの、平成21年からは減少傾向に転じ、「(仮称)JR奈良駅東口自転車駐車場」は事業が完了していないが、暫定自転車駐車場に駐輪している現状で、評価値が目標値を下回った。この状況において既に目標を達成しており、整備完了時には更なる効果が期待できる。	自転車等放置禁止区域外においては放置自転車が見受けられるようになり、指標の達成で想定されていた状況とは異なる状況が発生してしまった。

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。
 ※2 目標達成度の記入方法
 ○: 評価値が目標値を上回った場合
 △: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
 ×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した	予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		
都市再生整備計画の変更(第3回変更)時にモニタリングを実施	予定どおり実施した		● 平成20年2月～9月にモニタリング実施(指標1, 2のデータ計測実施)モニタリング結果を受け、都市再生整備計画の変更(平成20年11月変更)を行った。	
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
都市再生整備計画の変更(第5回変更)時にモニタリングを実施	予定どおり実施した		● 平成21年7月～12月にモニタリング実施(指標1, 2のデータ計測実施)モニタリング結果を受け、都市再生整備計画の変更(平成22年3月変更)を行った。	
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
都市再生整備計画の変更(第6回変更)時にモニタリングを実施	予定どおり実施した		● 平成22年7月～12月にモニタリング実施(指標1, 2, 3のデータ計測実施)モニタリング結果を受け、都市再生整備計画の変更(平成23年3月変更)を行った。	
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した	予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		
三条通りまちづくり協議会による三条通りの活力あるまちづくりへの取り組み	予定どおり実施した		● 平成21年度に第3次企画委員会が発足。以後、2年余りの間で20回以上の議論を重ねた。その成果の一つとして平成23年5月に「三条通り周辺の『奈良らしい景観づくり』整備構想提案書(案)」を作成し、市と連携・協働して事業を展開している。	今後とも、上位計画と整合を図りつつ、三条通りまちづくり協議会と協働していく予定である。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
該当なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(事後評価検討会議)	関係課の係長級以上職員(都市計画課、総合政策課、財政課、観光振興課、商工労政課、交通政策課、JR奈良駅周辺整備事業所、景観課、街路課、文化財課)	平成23年8月29日	都市整備部 都市計画室 都市計画課
全庁的な意見の照会	庁内の上記以外の各課	平成23年9月9日～14日	都市整備部 都市計画室 都市計画課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標1	指標2	指標3	
指標名		三条通の歩行者・二輪車交通量	観光案内所への来訪者数	JR奈良駅周辺の放置自転車数	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路:三条線(三条工区)	○	平成18年までは三条通の歩行者通行量は減少傾向にあったが、平成19年以降は前年歩行者数を上回り、増加傾向に転じていることから、評価値(推計値)は目標値に達していないものの改善していると認められる。また、平成18年から平成22年の実測通行量を基に平成24年における推計値が1200人と算出され、完成見込み事業の整備が進めばなお一層目標値への到達が可能になると考えられる。	○	評価値(推計値)は、平成13年から平成22年における月別来訪者比率及び平成23年1月から7月における実測来訪数を基に算出し、東日本大震災の影響もあり目標値を下回った。平成17年までは奈良市観光案内所の年間来訪者数は減少傾向にあったが、平成18年以降は前年来訪者数を上回り、増加傾向に転じていることから、評価値(推計値)は目標に達していないものの、改善していると認められる。また、平成24年における来訪者数については、平成17年から平成21年までの実測来訪者数を基に推計値を約520人と算出したうえで、来年度震災の影響が収まればこれまでの傾向で推移すると考えられ、目標は概ね達成すると判断した。
	道路:大宮三条本町線	○		○	
	地域生活基盤施設:JR奈良駅東口駅前広場	○		○	
	地域生活基盤施設:JR奈良駅西口駅前広場拡幅	○		○	
	地域生活基盤施設:(仮称)JR奈良駅東口自転車駐車場	○		○	
	高質空間形成施設:JR高架下公衆トイレ	○		○	
	高質空間形成施設:JR奈良駅東口駅前広場デッキシェルター	○		○	
	高次都市施設:JR奈良駅東口駅前広場デッキ・階段等	○		○	
高次都市施設:JR奈良駅西口駅前広場デッキ	○	○			
提案事業	地域創造支線事業:JR旧奈良駅舎耐震改修・施設整備	○	平成20年まではJR奈良駅周辺自転車等放置禁止区域内における放置自転車数は増加傾向にあったものの、平成21年からは減少傾向に転じ、「(仮称)JR奈良駅東口自転車駐車場」は事業が完了していないが、暫定自転車駐車場に駐輪している現状で、評価値が目標値を下回った。この状況において既に目標を達成しており、整備完了時には更なる効果が期待できる。		
	地域創造支線事業:旧松矢家住宅活用事業	○			
	地域創造支線事業:良好な歩行者空間整備	○			
	事業活用調査:歴史的町並み資産調査	○			
	事業活用調査:三条線と駅前広場の整備とあわせた景観計画	○			
	事業活用調査:近鉄奈良駅周辺交通結節点改善計画策定	○			
まちづくり活動推進事業:ならまちまちなるべの設置	○				
関連事業	JR奈良駅周辺土地区画整理事業	○	○		
	JR奈良駅南特定土地区画整理事業	○			
	JR奈良駅付近連続立体交差事業	○			
	街路事業	○			
	平城遷都1300年祭	○			
	奈良燈花会	○			
バザール祭り	○				

※指標改善への貢献度

- :事業が効果を発揮し、指標の改善に貢献した。
- -:事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	新たな施設や機能の立地誘導により、活力維持・強化を図る。 整備した施設の適切な維持管理をする。	観光案内所を、観光客へより一層の観光情報・歴史学習材料を提供できる場とするともに、観光拠点の情報発信の場としても充実を図る。	周辺環境の美化を継続し、放置自転車が発生しにくい環境を維持すると共に秩序だった施設の使用ができるように、注意を促す。
-------	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(事後評価検討会議)	関係課の係長級以上職員(都市計画課、総合政策課、財政課、観光振興課、商工労政課、交通政策課、JR奈良駅周辺整備事業所、景観課、街路課、文化財課)	平成23年8月29日	都市整備部 都市計画室 都市計画課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
中心市街地の玄関口としてのJR奈良駅周辺地区整備の完遂とその整備効果の周辺への波及促進	減少傾向にあった駅前の歩行者数等が、駅前整備により、近年は微増傾向に変わり、整備前の傾向から変化したことは見て取れる。	効果の持続を図るため、本事業から削除し、平成24年度以降の事業で実施することとした個別事業の実施	関連事業であるJR奈良駅付近連続立体交差事業によって生じた隙間地等の有効利用方策の検討 自転車等放置禁止区域外(三条線の道路拡幅用地部分やJR奈良駅付近連続立体交差事業によって生じた隙間地等)への放置自転車が見受けられるようになった。

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	目標の継続状況の把握	評価指標の目標値の維持。	評価指標の定期的なモニタリング
	JR奈良駅周辺の環境維持	整備直後の秩序だった周辺環境を維持する。	①商店街との協働による清掃作業 ②駐輪禁止区域内の放置自転車の撤廃に向けたPR活動及び取締り ③都市計画道路奈良橿原線の整備後における、建築物、工作物の色彩、形態等の制限や屋外広告物の規制誘導
	新しい機能や付加価値の追加	リピータの確保。	①三条通りまちづくり協議会との連携によるサービスの向上 ②観光案内所を、観光客へより一層の観光情報・歴史学習材料を提供できる場とするとともに、観光拠点の情報発信の場としても充実を図る。 ③災害時に、外国人を含む観光客を安全に避難地へ誘導可能な観光マップの配布。

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	他事業と一体的な整備を図ることが、より効果的として本計画から削除された事業の実施	平成24年度以降に事業化を図る。	①(仮称)JR奈良駅東口駅前広場の第二期工事 JR奈良駅東口通路の整備含む ②隙間地の有効利用 (仮称)JR奈良駅西側歩行者道 JR高架化に伴う隙間地を活用した緑化整備の実施等 ③自転車等放置禁止区域の見直し
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	自転車等放置禁止区域外の放置自転車の削減	

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	本事業で掲げた数値目標は概ね達成見込みである。	奈良市では、近畿圏も含めて観光入込客数が多いため、市内のみのイベントだけではなく、他市町村等広域的な範囲でイベントについても把握をし、その影響を考慮した指標の設定・考察が必要と考えられる。 全国的に影響を及ぼす自然災害などの発生時には指標の慎重な解釈が必要となる。
	うまくいかなかった点	事業期間中(H22)に平城遷都1300年祭が開催され、入込客数は増加し、この影響を除いても例年通りであれば目標値は達成の予定であったが、翌年(H23.3月)に東日本大震災が発生した影響で入込客数が減少し、平成23年度では目標値の達成は困難となった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	三条通りの歩行者数や案内所への来訪者として、整備効果の一部を把握することができた。	・指標設定においては、事後評価の実施を考慮し、事業による効果が発現しやすい指標(事業から直接的に影響を受ける指標)を設定する。 ・直接的な効果が把握できない場合は、定性的な指標を設定し、それについて観察することも必要である。
	うまくいかなかった点	自転車等放置禁止区域においては施設が完成していなくても目標を達成する状況となった。しかしながら、区域外においては放置自転車が見受けられるようになり、指標の達成とは異なる状況が発生してしまった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	三条通まちづくり協議会との協働・連携により、三条通の整備や維持管理が円滑にできている。	・住民参加については、地域に根付いた組織を核として、事業を展開することが望ましい。
	うまくいかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	モニタリングにより、計画の実施状況が把握でき、計画の修正を行うことができた。	・事業前の状況を把握するとともに、事業の推移を観察し、必要であれば目標値を修正する。 ・目標に達しないと見込まれる場合、原因の追求とその対策を講じる。
	うまくいかなかった点	—	
その他	うまくいった点	—	
	うまくいかなかった点	—	

添付様式6－参考記述 今後、社会資本総合整備計画の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(仮称)JR奈良駅東口駅前広場の第二期工事 等

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに原案を掲載	平成23年10月3日～11月2日	平成23年10月3日～11月2日	担当課への持参・郵送・FAX・Eメールにより受け付ける。	都市整備部 都市計画室 都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布	市報に閲覧方法、公表期間、意見の受付方法等を掲載し、市民への周知を図った。	市報(奈良しみんだより)10月号	市報での周知のみのため、該当なし		
説明会・ワークショップ	該当なし	該当なし	該当なし		
その他	市役所(都市計画課、文書法制課)、各出張所、各連絡所、各行政センターで閲覧できるようにする。	平成23年10月3日～11月2日	平成23年10月3日～11月2日		

住民の意見	<p>住民から寄せられた意見を以下に示す。</p> <p>(1)環境保全と観光産業の発展における持続可能社会の構築を目指してほしい。</p> <p>(2)車両による便は良かった。しかし、奈良を玄関口に言うならば、もっと近鉄とJRの関係性を考えるべきではないのか。観光、周辺住民等しか目に入っておらず、県民の意見をもっと聞くべきだったと思う。</p> <p>(3)照明 ソーラーパネルと照明(LED)の一体化。</p> <p>(4)無機質な鉄のポール(車止め)ではなく本物の樹木を植える。</p> <p>(5)(横断防止)柵の所に人が憩えるようなベンチ(間伐材を使用)を。</p>
-------	---

(6) 都市再生整備計画評価委員会の審議

添付様式8 都市再生整備計画評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	◆同志社大学名誉教授 杉江 雅彦(委員長)	1回目 平成23年11月9日(水) 2回目 平成23年11月16日(水)	都市整備部 都市計画室 都市計画課	「奈良市都市再生整備計画評価委員会設置要領」による	都市整備部 都市計画室 都市計画課
	◆奈良女子大学教授 今井 範子(副委員長)				
	◆奈良女子大学大学院教授 中山 徹				

審議事項		委員会の意見 :【 】書きは委員からの意見以外の特記。“-”は該当なし。
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	【方法書の内容と、その内容に基づいて事後評価を実施したことを報告した】
	成果の評価	○事後評価結果の公表の際には、指標3の「JR奈良駅周辺の放置自転車数」の定義(計測されている放置自転車数が自転車等放置禁止区域内のみであること)を明確にしておくこと。
	実施過程の評価	【3回のモニタリングの実施結果と住民参加プロセス(三条通りまちづくり協議会による商店街の活性化の取り組み)について報告した】
	効果発現要因の整理	○「指標改善への貢献度」について、評価基準を明確にし、考え方に一貫性を持たせたいと評価をすること。
	事後評価原案の公表の妥当性	【事後評価原案の公表内容及び市民から寄せられた意見、及びその対応について報告した】
	その他	-
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	【全委員で妥当性について確認した】
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	①「今後のまちづくり方策」の記述について、一般的に分かりやすい表現に修正すること。 ②本整備計画の「大目標」に対応したスケール感で、課題の変化を記述すべき。
	フォローアップ	【フォローアップ計画について説明した】
	その他	-
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	【全委員で妥当性について確認した】
その他		①社会資本はある程度整備できたので、それを活かす景観形成を積極的にまちづくりに取り入れることが望まれる。 ②東日本大震災以降、災害に対する考え方が変わり、奈良市においても、地域住民だけではなく、観光客に対して避難地や避難誘導が求められる。 ③旧駅舎を利用した観光案内所の利用形態として、奈良の玄関としてふさわしい、文化や歴史が学習できる場所としての整備を望む。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、都市再生整備計画評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
該当なし	該当なし	該当なし

有識者の意見	該当なし
--------	------